

税務調査で聞かれる16の質問とその意図①

税務調査110番コラム2021.3.24税務調査の流れと対策 より

税務調査の質問には必ず意図がある

税務調査では、調査官が様々な質問をしてきます。なかには雑談のような雰囲気でも話を切り出されることもあります。これらの会話も含めて、全て調査官の意図があって聞いてくるものです。

安直に話をしてしまうと重箱の隅を突かれかねませんので、注意する必要があります。当日、慌てずに毅然とした態度で質問に答えられるよう、下準備は入念に、万全の体制で臨みましょう。

税務調査官16の質問項目と質問意図

①仕事内容に関する質問と意図

《質問》どのようなお仕事をされているのですか？どんな商品を扱っているのですか？

《意図》仕事内容以外の収入がないか？をチェックしています。

②創業経緯・起業理由に関する質問と意図

《質問》いつ開業されたんですか？創業のきっかけ、これまでの略歴を教えてください。

《意図》収入がないと思われる時期の収入源は何か？をチェックしています。

③開業時期や移転時期に関する質問と意図

《質問》お店(事務所)を出されたのはいつですか？最初からこの場所で開業をされたんですか？

《意図》他の事業所の売上はないか？をチェックしています。

④従業員に関する質問と意図

《質問》従業員は何名いますか？どのような人達ですか？

《意図》架空の給与がないか？をチェックしています。

⑤経営者の家族構成に関する質問と意図

《質問》ご家族は何人いますか？どちらのご出身ですか？どのようなお仕事をされていますか？

《意図》専従者給与に該当しないか？家族給与に実態があるか？をチェックしています。

⑥支払い家賃に関する質問と意図

《質問》持家(事務所)なんですか？月々の家賃はいくらくらいですか？

《意図》ローン残高等の経営者の生活費の算出。役員報酬以外の収入がないか？(たとえば売上の一部が経営者の生活費になっていないか？)をチェックしています。

⑦取引先に関する質問と意図

《質問》メインのお取引先はどちらですか？どんな会社ですか？

《意図》売上、仕入れの計上漏れがないか？をチェックしています。

⑧請求に関する質問と意図

《質問》お取引先へのご請求は毎月何件くらいありますか？何日締めの日請求ですか？

《意図》経理処理が発生主義になっているか(現金主義になっていないか)？をチェックしています。

一定の要件を満たす場合を除き、青色申告・白色申告に関係なく発生主義によることが原則となっています。

【今月の経営格言】 優柔不断は誤った決定よりなお悪い。

by 一倉定 (経営コンサルタント)

決定で大切なのはタイミング。客観情勢は容赦なく変わり、ぐずぐずしていると時機を失う。決定は巧遅より稚拙の方が大切な場合が多く、速やかに行動を起こさないと手遅れとなる。たとえ決定が間違っても、早く動き出せば、早く発見でき、訂正する時間が残る。いかに優れた決定も、土壇場では実現する時間が無い。躊躇して何も決められない社長は会社を潰す。社長が最も戒めるのは、優柔不断である。「一倉定の経営心得」より